



多様性 × 協働 = 新しい価値 —私から“私たち”へ—

本研修では、講義・ワークショップ・対談を通して、多様性を「受け入れるもの」から「楽しみ、活かすもの」へと捉え直す学びを深めました。

アイスブレイクから始まる体験型プログラムにより、参加者同士の心理的な距離が縮まり、違いや対立を恐れず越境する姿勢が育まれました。理論に裏付けられた分かりやすい講義と、実践者によるリアルな語りが重なり、「自分の考え方が変わった」「行動につなげたい」といった声が多数寄せられました。地域、学校、職場など、それぞれの現場で協働を進めていくためのヒントと勇気を得られる、充実した研修となりました。

(受講者 40名)



〈研修内容〉

- 講義・ワークショップ「私たちが“ちがう”ことの大切さとむずかしさ」
講師 長野大学 社会福祉学部 教授 早坂 淳氏
長野県教育委員 伴 美佐子氏
- 講演「あなたの声こそ価値がある」
講師 富士見町長 渡辺 葉 氏
- 対談 渡辺 葉 氏・早坂 淳 氏



受講者アンケートから

- 違いを楽しむということばをより深く感じた。“違うから楽しいことに出合う”このことを大切にしたい。(諸団体)
- なかなか、ストレッチゾーンへの越境ができない性格だと思っているがこれからは越境を恐れずにやっていこうと思えた。多様性と協働を楽しみながらやっていきたい。(県・国職員)
- アイスブレイクとてもよかったです。久々に紙ねんどにふれることができました。今日の、話しを参考に協働について考えながら進んでいきたいと思えます。(学校支援ボランティア)
- 協働というレベルになっていくために自身が境界を越えることが大切という話があり、自分事として考えたいと思いました。文化の6次元モデルはおもしろかったです。多様性を恐れる背景がよく分かりました。(市町村職員)
- 声をかけることの大切さがよくわかるお話でした。“あなたは どう思いますか？”これから使っていきたいと思えます。“ガラスの天井”自分で作らないで生活したいと思いました。(PTA)
- 一人ひとりに「あなたは どう思いますか？」という問いを大切にしてい意見を持ち、多様な意見を尊重できる社会を創りたいと思った。(学校教職員)